

ハブ抗毒素(血清)は外来種とハブとの雑種の毒を中和します

沖縄本島では、過去に島外から持ち込まれ逃げ出したサキシマハブや台湾ハブが、一部地域で定着し増えています。これらの外来種は、定着に伴い本島内で数多く捕獲されるようになり、さらに外来種と在来ハブが交配した雑種も現れ、これまでに数匹捕獲されています。

このような雑種が初めて確認されてから17年以上経過していますが、幸いにも現在までに人が咬まれる事故は発生していません。ちまたでは雑種の毒には従来のハブ抗毒素(血清)が効かないのでは、と不安視する声も聞かれますが、当研究所が平成6年度と平成14年度におこなった動物を使った中和実験により、ハブ抗毒素(血清)が雑種の毒を良好に抑えることが分かっています。

図1はその中和実験の結果です。図の縦軸は、ハブ抗毒素(血清)0.1mlが中和(毒の出血作用を抑

える)できる、各ヘビ毒の量を表しており、棒グラフが高いほどハブ抗毒素(血清)の効果が高い事を示します。このグラフから、ハブ抗毒素(血清)が雑種の毒をハブ毒同様に抑えていることが分かります。

このようにハブ抗毒素(血清)が雑種の毒を中和できるのは、3種(ハブ・サキシマハブ・台湾ハブ)の毒の種類や成分が似ているためだと考えられます。ハブ抗毒素(血清)はハブと異なる毒を持つコブラ類には効果がありませんが、サキシマハブや台湾ハブに咬まれた際にも使用され、治療効果があることが報告されています。しかし、たとえハブ抗毒素(血清)が雑種に対して有効でも、咬まれないに越したことはありません。普段から咬まれないよう注意しましょう。

【衛生科学班】

マイクログラム

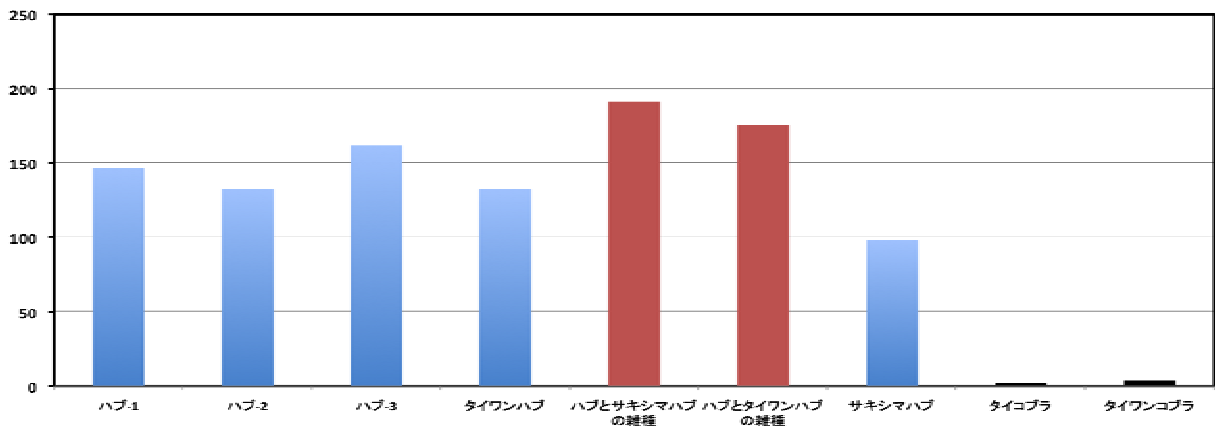


図1. ハブ抗毒素(血清)0.1mlが中和できる各ヘビ毒の量



写真1. ハブとサキシマハブの雑種



写真2. ハブと台湾ハブの雑種